

音楽科学習指導案

1 日 時 平成 年 月 日 () ~ 月 日 () 全6時間

2 学年・組 第 学年 組 (名)

3 場 所 年 組教室・音楽室

4 題 材 「音探しの旅～身体を楽器にした音楽の面白さを味わおう～」

5 題材の目標

身体から出る音を使ってできる曲の構造を理解して聴き、それらや即興的な表現を生かし変化のある音楽をつくる活動を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。

6 本題材と学習指導要領のかかわり

・指導事項 A表現(3)音楽づくり ア・イ, B鑑賞(1)イ

〔共通事項〕 ア(ア)音色・リズム・強弱 (イ)反復・変化・音楽の縦と横の関係

7 題材設定の意図

(1) 題材について

本題材では、〔共通事項〕にある音楽を形づくっている要素を要とし、鑑賞と音楽づくりの関連を重視した学習を進める。具体的には、「ロック・トラップ」の曲の構造を理解して聴いた後、身体で表す音を用いた即興的に表現する学習を経て、音楽の仕組みを生かし見通しをもって音楽をつくる活動へ、その後、再度「ロック・トラップ」及び、音楽の縦と横の関係が聴き取りやすい曲を何曲か鑑賞し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解するという関連を図る。

第1時の鑑賞の活動では、「ロック・トラップ」を、楽曲の構成(音楽の縦と横の関係)や演奏の仕方などを感じ取りながら聴く。その際、リズム譜を提示することで、音楽の入り方や同時に演奏する部分、反復、リズムや強弱の変化などに気付き、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くことができるようにしたい。

第2時から第5時までの音楽づくりの活動では、鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かし、身体を使って音楽をつくる。このうち、第2時・第3時では、学習指導要領における音楽づくりの指導事項アに相当する、音楽づくりの素地となる「即興的に表現する学習」を取り入れる。具体的には、身体の部分を使って自由に音を出したり、強弱をつけてたたき方を変えたりして、様々な音を探る活動を行う。さらに、見つけた音を使って、自分の工夫した音を真似したり、友だちの工夫した音と友だちの音をつなげたり組み合わせたりしていろいろ試すことで、音をつくる面白さや楽しさに気付くことができるようにしたい。第4時・第5時では、四人組で変化のある音楽を工夫してつくり、発表する。このとき、第2時・第3時における、即興的な表現で一人ひとりが工夫した音を活用しながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくることができるようにしたい。

第6時は、音楽づくりで培った力を生かし、再び鑑賞する活動を行う。十分に音楽づくりの経験をした後に聴くことで、はじめの鑑賞のときと比べ、身体を使った音楽の面白さや、反復、リズム・強弱の変化をより聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さをより感じ取ることができる。更に、変化が聴き取りやすい曲を何曲か鑑賞することで、様々な音楽の面白さに目を向けることができるようにしたい。

このように、鑑賞と音楽づくりを関連付けて学習を進めることで、主体的・創造的に取り組む力の育成を目指したい。また、発達の段階に応じた学習の積み重ねが、音楽と生活との関わりに関心を持ち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことにつながると考える。

(2) 題材の構造図

「音探しの旅～身体を楽器にした音楽の面白さを味わおう～」

題材の目標：身体から出る音を使ってできる曲の構造を理解して聴き、それらや即興的な表現を生かし変化のある音楽をつくる活動を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。(全6時間)

…題材を通して指導する、「共通事項」に示された音楽を形づくっている要素

身体を楽器にした音楽の面白さを見つけよう。

第1時

音色

リズム

強弱

反復

変化

音楽の縦と横の関係

<感じたこと>

<気付いたこと>

鑑賞1H

- ・面白そう。
- ・楽しい感じがする。
- ・ノリがいいね。
- ・つい身体を動かしたくなるよ。
- ・何人で演奏しているのかな。
- ・だんだんもりあがっていく感じがする。
- ・身体のどの部分をたたいている音かな。(音色)
- ・だんだん強くなったり弱くなったりするね。(強弱)
- ・全員が同じリズムの部分があるね。
- ・同じリズムのパターンがくり返されているね。(反復)
- ・少し変わってはじめてのリズムにもどったよ。(変化)
- ・少しずつ音が重なって同時に演奏し、変化していくね。(音楽の縦と横の関係)

わたしたちも身体を使った音楽ができるかな。

～鑑賞の活動で学んだことを生かして、音楽づくりの活動へ～

○即興的に表現する学習

身体を使って、様々な音を探ろう。

第2時

音楽づくり2H

②二人組で身体を使った様々な音を探る。

③四人組で「四つのリズム」と「テーマのリズム」をつくる発想をもつ。

第3時

- ・手や口、太ももや声など…いろいろ試してみよう。
- ・手をたたくだけでも、いろいろな音色があるね。
- ・部分や奏法によって音色が変わって面白いね。
- ・工夫した音をみんなで真似てみよう。(反復)
- ・自分の工夫した音と友だちの音をつなげたり、組み合わせたりしてみよう。(音楽の縦と横の関係)

自分たちで音楽をつくることができそうだね。

●まとまりのある音楽をつくる学習

自分たちで変化のある音楽をつくろう。

第4時

音楽づくり2H

④四人組で変化のある音楽をつくる。 ⑤終わり方を考え、発表する。

第5時

- ・音の重ね方(縦の関係)と時間的な流れ(横の関係)をどのように組み合わせるかいろいろ試そう。
- ・一人ずつ入って、全員で同じリズムを演奏しよう。
- ・A-Bの音楽にして、Bでもりあがるように変化させよう。
- ・更に強弱や動きをつけよう。

自分たちで見つけた音楽の仕組みを生かして、音楽をつくることができたね。

～音楽づくりで培った力を生かして、再び鑑賞の活動へ～

身体を楽器にした音楽の面白さを味わおう。

第6時

鑑賞1H

- ・それぞれの音色がはっきりと聞き取れるようになったよ。
- ・Aの部分とB・Cの部分でリズム・強弱の変化などがあって面白いね。
- ・演奏している映像を観ると、身体を動かしていてとても楽しそうだね。
- ・音楽の縦と横の関係が聞き取りやすい音楽はほかにもたくさんありそうだね。

はじめの鑑賞のときより、身体を楽器にした音楽の面白さを味わうことができたよ。

8 教材について

「ロック・トラップ」 シンシュタイン作曲

身体から出る音だけを使った作品で、4 パートの奏者に分かれてつくられている。曲は A-B-A-C-A-B-A のロンド形式。A の部分では、膝ともも打ちのパターンが繰り返されていく中、手拍子や指鳴らしの音が加わっていく。これらを伴奏として、「シュッ」という無声音と口笛が主題を奏する。B は、ひざ下から腰にかけての部分で上下しながら叩き、強いクレッシェンド、デクレッシェンドをつけて演奏する部分の変化が特徴的である。一度だけ出てくる C は、短いパターンが次々と現れて、幾分複雑になる。

人間の身体からは様々な音をつくることができ、音を探していけば、音素材はどんどん広がっていく。身体から出る音を使うと、さまざまなリズムを使った即興的な音遊びをすることができる。この曲は、自分たちで音を開発し、それを組み合わせて自分たちの音楽をつくる際に非常に参考になる。音色、リズムや強弱の変化、反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その面白さを感じ取りやすい教材である。

「世界地図のフーガ」 トッホ作曲

組曲「Gesprochene Musik」（話し声の音楽）の最終楽章として作曲された。スピーキング・コーラスという、話し声を使って弾んだリズムで演奏される、ユーモラスに富んだ曲である。歌詞は、ほとんど世界の地名だけでできている。トニリダッド、ミシシッピ、ホノルル、チチカカ湖、ポポカテペトル、カナダ、メキシコ、マラガ、リミニ、ブリンディシ、長崎、横浜、チベットと、リズムに合わせて唱えられていく。一人ずつずらして重なっていくのが特徴的な音楽で、音色、反復、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その面白さを感じ取りやすい教材である。

「木片の音楽」 ライヒ作曲

数個のそれぞれ音程の異なるアフリカン・クラベスが使われている。このクラベスが、それぞれに単純な同じパターンを繰り返したり、少しずつ違ったパターンに変化していったりする中で、それらのリズム・パターンが互いに絡まり合い組み合わさって、リズムの変化のたびに微妙な新しいメロディーが聴こえてくる。反復やリズムの変化、音楽の縦と横の関係を聴き取り、その面白さを感じ取りやすい教材である。

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
音楽づくり	○	○	○	
鑑賞	○			○
題材の評価規準	曲想とその変化などの特徴、いろいろな音楽表現に興味・関心をもち、鑑賞の学習や即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、即興的な表現や音を音楽に構成していくことを工夫し、どのように音楽をつくるかについて見通しをもっている。	音楽の仕組みを生かすなどの基礎的な技能を身に付けて、音を音楽に構成している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。
評価の視点	① 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 鑑賞の活動で学んだ、身体を使ってできるいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、身体を使ってできるいろいろな音楽表現を生かし、どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもっている。 ② 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。	① 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係を生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくっている。	① 音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 ② 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

4	○音楽の仕組みを生かし、四人組で変化のある音楽をつくる。	<p>リズムをつくるかについて発想をもつことができるようにする。</p> <p>*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、変化のある音楽をつくることができるようにする。</p>	<p>をもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)</p> <p>【イー②】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)</p>
5	○終わり方を考え、変化のある音楽をつくり発表する。	<p>*鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かすことにより、見通しをもって変化のある音楽をつくることができるようにする。</p>	<p>【ウー①】 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カード)</p>
第3次 1	<p><ねらい> 音楽づくりの活動で培った力を生かし、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴くことができるようにする。(鑑賞：第6時)</p> <p><教材> 「ロック・トラップ」「世界地図のフーガ」「木片の音楽」</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・強弱 (イ) 反復・変化・音楽の縦と横の関係</p>		
6	<p>○もう一度「ロック・トラップ」を聴き、身体を楽器にした音楽の面白さを味わう。</p> <p>(学習カードの例) わたしは、はじめの鑑賞では、四つのリズムがあまりよく聴き取れませんでした。でも、いろいろな音を探したことで、最後の鑑賞ではリズムがはっきりと聴き取れるようになりました。また、グループで重ねたり組み合わせたりすることで、いろいろな重なり方をしていることに気付くことができました。「シュッ」という音でつくられたリズムが面白いです。また、同じリズムをいっせいに演奏しているところが、音がそろっていてかっこいいなと思いました。</p>	<p>*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を理解することができるようにする。</p> <p>*これまでの学習カードを参考にしながら、鑑賞して音楽をつくり、再び鑑賞したことにより、はじめの鑑賞から感じたことや気付いたことがどのように変わったのか、自らの身に付いた力を実感することができるようにする。</p>	<p>【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>

1 1 本時の学習 (1 / 6 時)

- (1) 目標
- ・ 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組む。
 - ・ 音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 曲を聴いた感想を交流し、本時のめあての確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シュッ」という声が聴こえたよ。 ・身体をたたいているのかな。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">身体を楽器にした音楽の面白さを見つけよう。</p> <p>2 感じたことや気付いたことを交流する。</p> <p>「どのような感じがしましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリがよくて面白そうだね。 ・楽しい感じがする。 ・つい身体を動かしたくなるよ。 ・何人で演奏しているのかな。 ・だんだんもり上がっていく感じがするよ。 <p>「音楽のどこからそう感じましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体はどこかをたたいている音がするよ。(音色) ・だんだん強くなったり弱くなったりしているね。(強弱) ・全員が同じリズムをたたいているところがあるね。 ・同じリズムのパターンがくり返されているよ。(反復) ・少し変わってはじめてのリズムにもどったよ。(変化) ・少しずつ音が重なってから同時に演奏し、変化していくよ。(音楽の縦と横の関係) <p>3 次時の予告をする。</p> <p>「次時からは、身体を使った音楽をつくっていきましょう。」</p>	<p>*感じたことを話し合い、音楽のどこからそう感じたのかをもう一度聴き返すことにより、音楽を形づくっている要素と関連させることができるようにする。</p> <p>○感じたことや気付いたことを、分けて板書する。</p> <p>*リズム譜を提示することにより、音楽の入り方や同時に演奏する部分、反復、リズムや強弱の変化に気付くことができるようにする。</p> <p>*実際に「ロック・トラップ」のリズムを経験することにより、音の出し方や重ね方の工夫に気付くことができるようにする。</p> <p>○〔共通事項〕カード(音楽を形づくっている要素が書かれたカード)を提示する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、そのよさを感じ取ることができるようにする。</p> <p>○学習したことを、学習カードに書く。</p> <p>*題材の流れを提示し、身体を使った音楽をつくること、その後再び鑑賞することを伝えることにより、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>【アー①】</p> <p>楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(聴いている様子の観察・発言)</p> <p>【エー①】</p> <p>音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。</p> <p>(発言・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

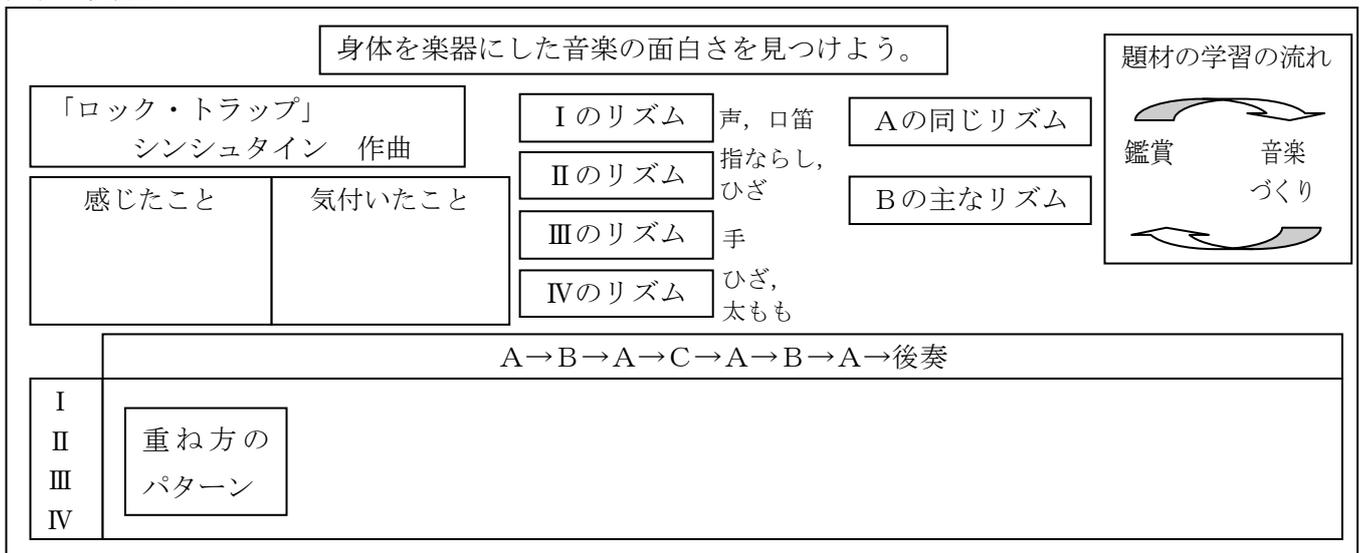
【音楽への関心・意欲・態度】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ア-①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・楽曲全体にわたる曲想や特徴が聴き取りにくい子どもには、友だちの意見を参考にしたり、指導者が声をかけたりして、曲の特徴に気付くことができるようにする。	○質的に高まった状況 ・曲のよさを感じながら聴いたり、発言したりする活動に意欲的に取り組んでいる。
○具体的な評価方法 ・楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に進んで取り組んでいるかどうかを、聴いている様子の観察・発言から見取る。	

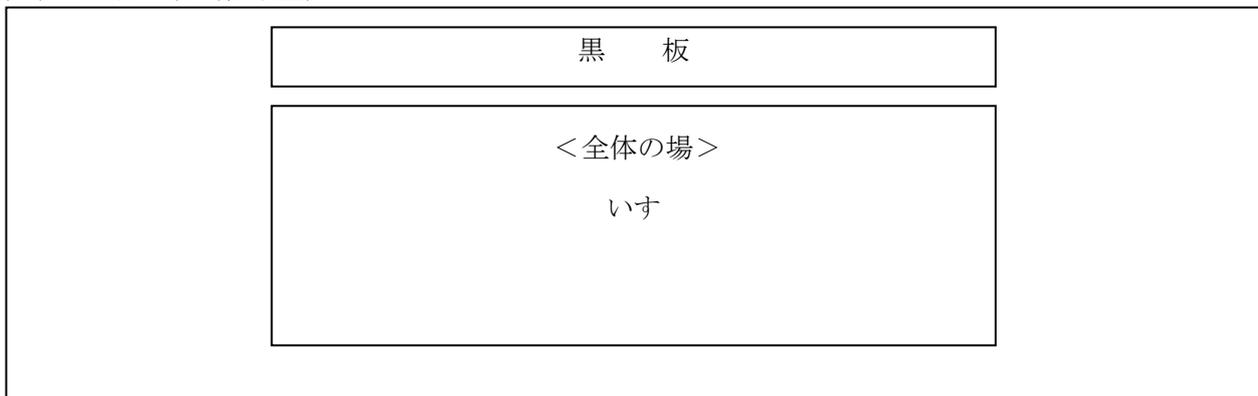
【鑑賞の能力】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【エ-①】 音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・音楽を形づくっている要素を聴き取りにくい子どもには、〔共通事項〕カードの掲示を見て、どれにあてはまるか考えるように助言する。 ・学習カードに書くことができにくい子どもには、板書を参考にしたり、音楽を形づくっている要素を用いて書いたりするように助言する。	○質的に高まった状況 ・感じたことや気付いたことについて、音楽を形づくっている要素を用いて、積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素を的確に用い、学習カードに書いている。
○具体的な評価方法 ・感じたことや気付いたことを、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えられているかどうかを、発言、学習カードから見取る。	

(4) 板書計画



(5) 活動の場 (音楽室)



1 1 本時の学習（2／6時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ，身体を使ってできるいろいろな音楽表現に興味・関心をもち，即興的に表現する学習に主体的に取り組む。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">身体を使って，様々な音を探ろう。</p> <p>2 身体を使って，どのような音を探すことができるか，全体で話し合う。 「身体を使って，どのような音を探すことができるでしょう。」 ・手や足や口や声など…いろいろな身体部分で音が変わるね。 ・口を使うだけでも，口笛，舌を巻く，唇をふるわせる，口をたたくなど，いろいろあるよ。</p> <p>3 身体を使った即興的な表現を楽しむ。 「二人組で，身体を使って様々な音を探しましょう。」 ・いろいろ試しながら，会話したり，真似したりしてみよう。 ・「シュッ」や「チッ」など，声でできる音もいろいろあるね。 ・身体部分や奏法によって音色が変わって面白いね。</p> <p>4 探した音を，全体で交流する。 「どんな音を探したのか，音でみんなに伝えましょう。」 ・(聴き手) たたく場所で音色が全然違うね。 ・(聴き手) 途中で強弱をつけていたよ。 ・(聴き手) リズムを変えていくと楽しくなるね。 ・友だちの探した音を，みんなで真似してみよう。</p> <p>5 次時の予告をする。 「次時は，身体を使って，四つのリズムとグループのテーマのリズムをつくりましょう。」</p>	<p>*ある一つの身体部分に限定し，どのような音が出るかを全体で話し合うことにより，これからの学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*身体部分や奏法による音色の違いや，反復，リズム・強弱の変化などによる，いろいろな音楽表現を知ることで，音や音楽をつくる面白さや楽しさに気付くことができるようにする。</p> <p>○次時につなげるために，鑑賞で聴き取った声を使った音も探すように伝える。「シュッ」「チッ」「ハッ」など</p> <p>*友だちのつくった音をよく聴いて音で会話したり組み合わせたりすることで，音を音楽にすることができるようにする。</p> <p>○聴き手は，つくり手がどのような音を探したのか，また，工夫していたことはないかに気を付けて聴くようにする。</p> <p>*発表した音をみんなで真似することで，友だちが見つけた音楽のよさや面白さを全体で交流することができるようにする。</p> <p>*どのような音を見つけたのかを，学習カードに書き留めておくことで，次時に生かすことができるようにする。</p>	<p>【ア－②】 鑑賞の活動で学んだ，身体を使ってできるいろいろな音楽表現に興味・関心をもち，即興的に表現する学習に主体的に取り組んでいる。 (つくっている様子の観察・発言・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

【音楽への関心・意欲・態度】(2/6時)

評価の視点とその具体的な姿	
<p>○評価の視点 【ア-②】 鑑賞の活動で学んだ、身体を使ってできるいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体を使ったいろいろな音楽表現に気付くことができにくい子どもには、指導者による身体の部分や奏法のヒント、友だちの意見などを参考にしたり、友だちのつくった音を聴いて真似したりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体の部分や奏法による音色の違い、反復、リズムや強弱の変化などによって生み出されるよさや面白さを感じ取り、様々な音を出そうと積極的に試みている。 自分から進んで友だちに働きかけ、相手を意識してよりよい音を出そうとしている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動で学んだ、身体を使ってできるいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、様々な音を探りながら主体的に取り組んでいるかどうかを、つくっている様子の観察・発言・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

身体を使って、様々な音を探ろう。

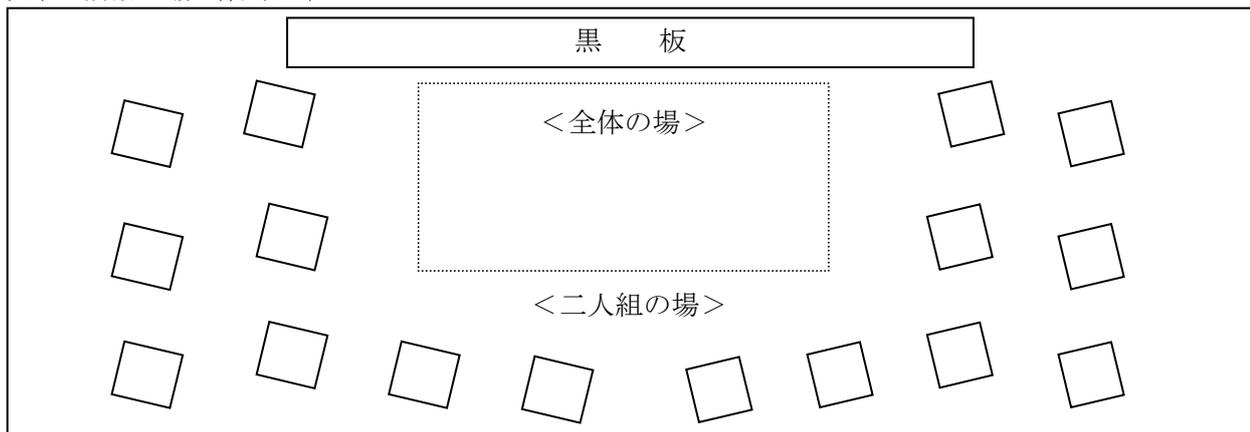
子どもたちが見つけた音

<例> ☆身体の部分	★奏法	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">音色</div>
・手	→	たたく・こする・指をならす・息を入れる
・口	→	口笛・舌を巻く・唇をふるわせる・口をたたく
・太もも	→	たたく・こする
・声	→	シュツ・チツ・ハツ
		<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">強弱</div> ・ <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">速度</div> ・ <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">リズム</div>

反復

変化

(5) 活動の場(音楽室)



1 1 本時の学習 (3 / 6 時)

(1) 目標 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、身体を使ってできるいろいろな音楽表現を生かし、どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもつ。

(2) 展開

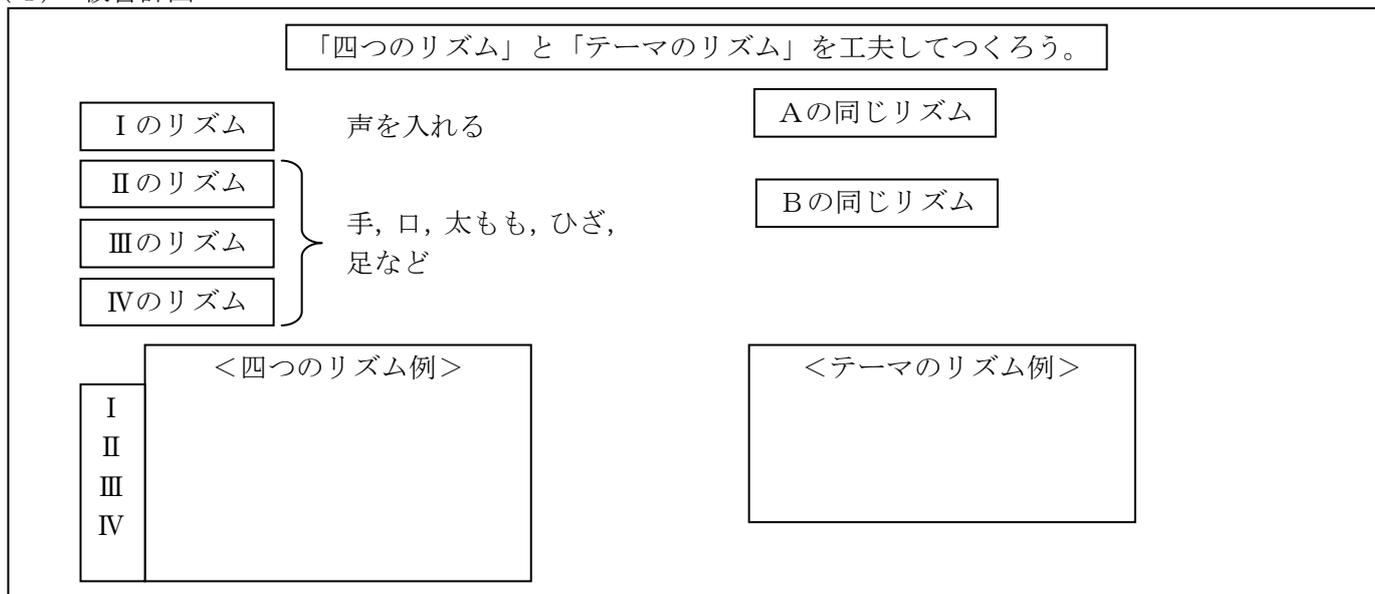
学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 本時のめあての確認をする。		
「四つのリズム」と「テーマのリズム」を工夫してつくろう。		
<p>2 どのように「四つのリズム」と「テーマのリズム」をつくれればよいか話し合う。 「どのように『四つのリズム』と『テーマのリズム』をつくれればよいでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に探した音を出し合ってつながてみたら音楽になりそうだよ。 ・いろいろな音を組み合わせてみたらどうかかな。 ・見つけたリズムをくり返してみてもいいね。 ・リズムを少しずつ変えてみても面白そうだよ。 ・つなげ方や組み合わせ方をいろいろ変えてみたら楽しそうだね。 	<p>○四人組になり、一人ずつ演奏する四つのリズム (2小節で、Iのパートは必ず声を入れる) をつくることと、全員で同じリズムを演奏するテーマのリズム (1小節か2小節) をつくることを伝える。</p> <p>*リズム例を見ることで、音楽のつくり方に見通しをもつことができるようにする。</p> <p>*グループ用の楽譜のつくり方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p>	
<p>3 四人組で、「四つのリズム」と「テーマのリズム」をつくる。 「つなげ方や組み合わせ方などを考えて、『四つのリズム』と『テーマのリズム』をつくりましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに見つけた音を話し合って、いろいろと試してみよう。 ・二人のつくったリズムを組み合わせてもいいね。 ・つくった四つのリズムを重ねてやってみよう。 	<p>*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、身体を使ってどのように四つのリズムとテーマのリズムをつくるかについて発想をもつことができるようにする。</p> <p>*一人ずつ考えるのではなく、前時で探した音を交流し、どのように音をつなげたり組み合わせたりできるかいろいろと試すことにより、リズムをつくることができるようにする。</p>	<p>【イー①】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、身体を使ってできるいろいろな音楽表現を生かし、どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもっている。</p>
<p>4 次時の予告をする。 「次は、四人組で変化のある音楽をつくりましょう。」</p>	<p>*どのように四つのリズムとテーマとのリズムをつくったのかを学習カードに書き留めておくことで、次時に生かすことができるようにする。</p>	<p>(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

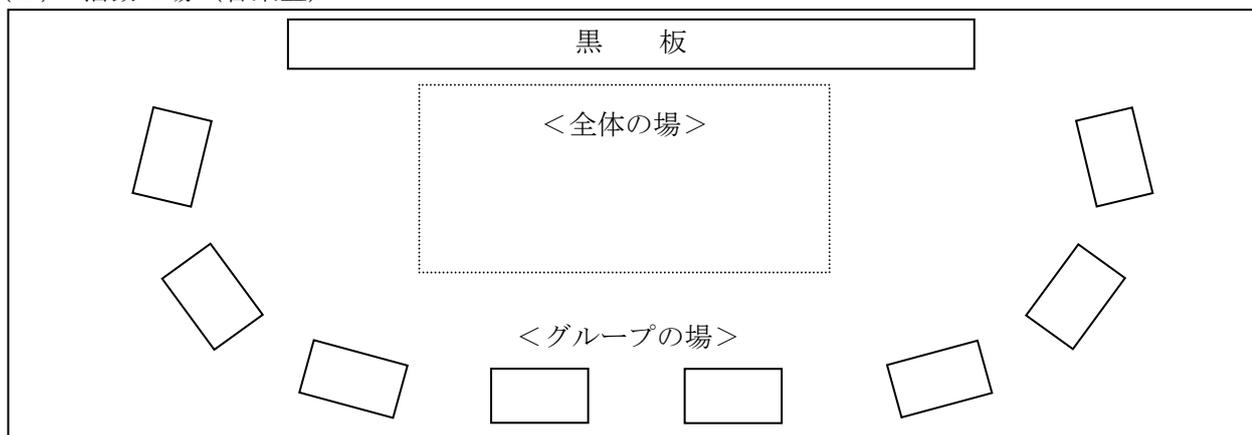
【音楽表現の創意工夫】(3/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【イ-①】</p> <p>鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、身体を使ってできるいろいろな音楽表現を生かし、どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> • どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもつことができにくい子どもには、友だちの意見を聞いて真似したり、前時で見つけた音を参考にいろいろと試しながら音楽をつくったりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> • よりよい音楽にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけ、いろいろな音楽表現を試して音楽をつくっている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取りながら、どのように四つのリズムやテーマのリズムをつくるかについて発想をもっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場 (音楽室)



1 1 本時の学習（4／6時）

(1) 目標 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもつ。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 *本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、『四つのリズム』と『テーマのリズム』を確認しましょう。」	*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。	
「四つのリズム」と「テーマのリズム」を重ねたりつなげたりして、変化のある音楽をつくろう。		
3 変化のある音楽をつくるための工夫について、全体で話し合う。 「変化のある音楽をつくるために、どのような工夫ができるでしょう。」 ・「ロック・トラップ」にはいろいろな重ね方があったから、それを組み合わせてみたらどうかな。 ・A→B→A…とリズムが変化していたから、前時につくったリズムとは違うリズムを入れてみよう。 ・強弱もつけてみると、もっと面白くなりそうだね。	*教師の例示を見たり、「ロック・トラップ」の重ね方のパターンをもう一度確認したりすることにより、変化のある音楽をつくるための見通しをもつことができるようにする。 *グループ用の楽譜の作り方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。	
4 四人組で変化のある音楽をつくる。 「四人組で変化のある音楽をつくりましょう。」 ・二人ずつ入ると、一人ずつ入っていく重ね方をつなげてみよう。 ・前時につくったときの身体の部分を変えて、違った音色にしてみよう。 ・強弱をつけてみると、もりあがる感じがしていいね。	*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、変化のある音楽をつくることができるようにする。 *四人組で重ね方を変えたり、リズム・強弱の変化をつけたりして、変化のある音楽をつくることができるようにする。	【イー②】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。
5 次時の予告をする。 「次時は、終わり方を考えて、発表しましょう。」	*どのような工夫をして変化のある音楽をつくったのかを学習カードに書き留めておくことで、次時に生かすことができるようにする。	(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)

(3) 評価活動の実際

【音楽表現の創意工夫】(4/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【イー②】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・変化のある音楽をつくるためにどのような工夫ができるか考えることができにくい子どもには、友だちの意見を聞いて真似したり、音を出しているいろいろと試しながら音楽をつくったりするように助言する。</p>	<p>○質的に高まった状況 ・よりよい音楽にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけ、みんなの音をよく聴きながらいろいろな音楽表現を試して音楽をつくっている。</p>
<p>○具体的な評価方法 ・鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取りながら、つくる変化のある音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カードから見取る。</p>	

(4) 板書計画

「四つのリズム」と「テーマのリズム」を重ねたりつなげたりして、変化のある音楽をつくろう。

- ・ 重ね方を組み合わせる
- ・ 音色を変える
- ・ 違う リズムを入れる
- ・ 強弱をつける

I

II

III

IV

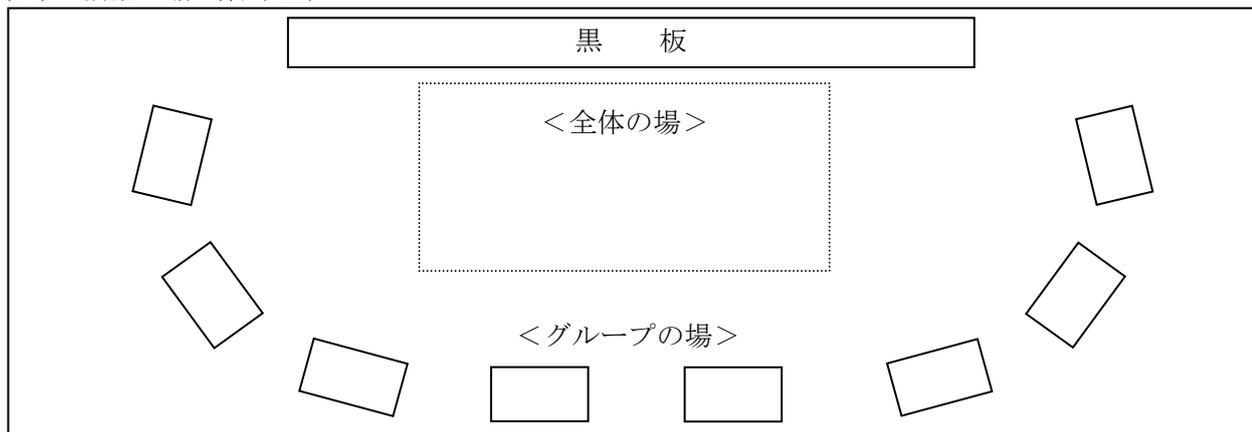
<テーマのリズム例>

音楽の縦と横の関係

<重ね方のパターン>

<変化のある音楽例>

(5) 活動の場 (音楽室)



1 1 本時の学習（5／6時）

- (1) 目標 鑑賞及び音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくる。
- (2) 展開

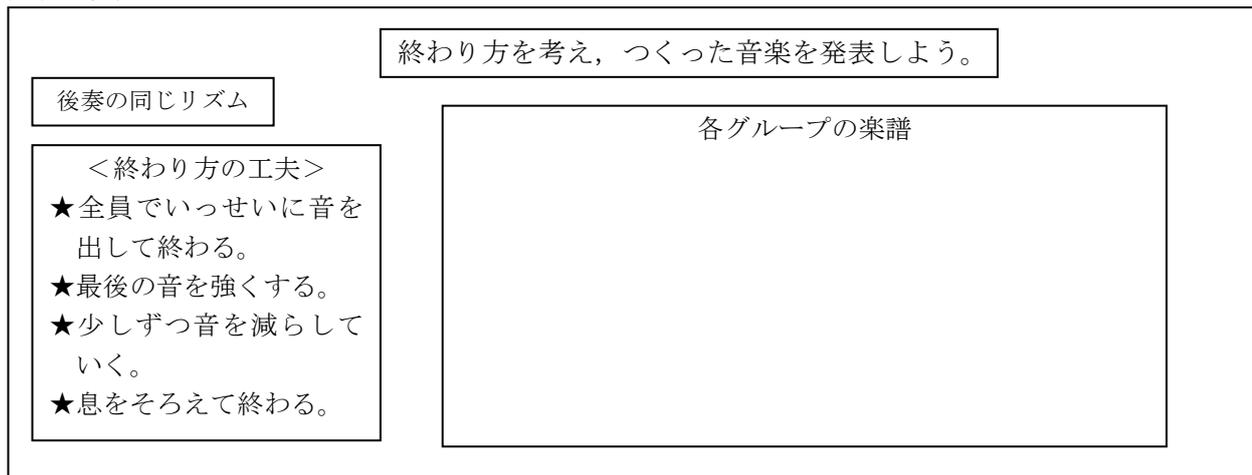
学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">終わり方を考え、つくった音楽を発表しよう。</p> <p>2 終わり方の工夫を全体で話し合う。 「終わる感じにするためには、どのような工夫をしたらよいでしょう。」 ・全員でいっせいに同じリズムで終わっているね。 ・強くして終わってみてもいいね。</p> <p>3 グループに分かれて、音楽を仕上げる。 「グループに分かれて最後の練習をし、音楽を仕上げましょう。」 ・お互いのパートをよく聴いて合わせよう。 ・終わりは息をそろえていっせいに終わろう。</p> <p>4 つくった音楽を発表し、全体で聴き合う。 「つくった変化のある音楽を発表しましょう。」 ・A は、はじめに二人ずつ入ります。その後、一人ずつ入って重ね、テーマのリズムを全員でたたきます。二回くり返し、一回目は弱く二回目は強くしてもりあげます。B は、同じリズムでⅠから順番に入った後、Ⅳからまた順番に入り、少しずつ強くして更にもりあげていきます。最後は、全員で強く手をたたいて終わります。聴いてください。</p> <p>5 次時の予告をする。 「次時は、もう一度『ロック・トラップ』を聴き、身体を楽器にした音楽の面白さを味わいましょう。」</p>	<p>*「ロック・トラップ」の終わりの部分をもう一度聴くことにより、終わり方の工夫を考えることができるようにする。 *いろいろな終わり方の工夫を試してみることにより、発想を広げることができるようにする。</p> <p style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto;">*鑑賞及び音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かすことにより、見通しをもって変化のある音楽をつくることことができるようにする。</p> <p>*発表は録画・録音することにより、後で確かめることができるようにする。 ○A と B の部分で、どのように工夫して音楽をつくったのかを伝えてから発表するようにする。 *どのような工夫をしたのか、また、つくった音楽がどのような感じに聴こえたかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○どのような工夫をして音楽をつくったのか、また、他のグループの発表を聴いてどのようなことに気付いたのかなどについて、学習カードに書くようにする。</p>	<p>【ウー①】 鑑賞及び音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

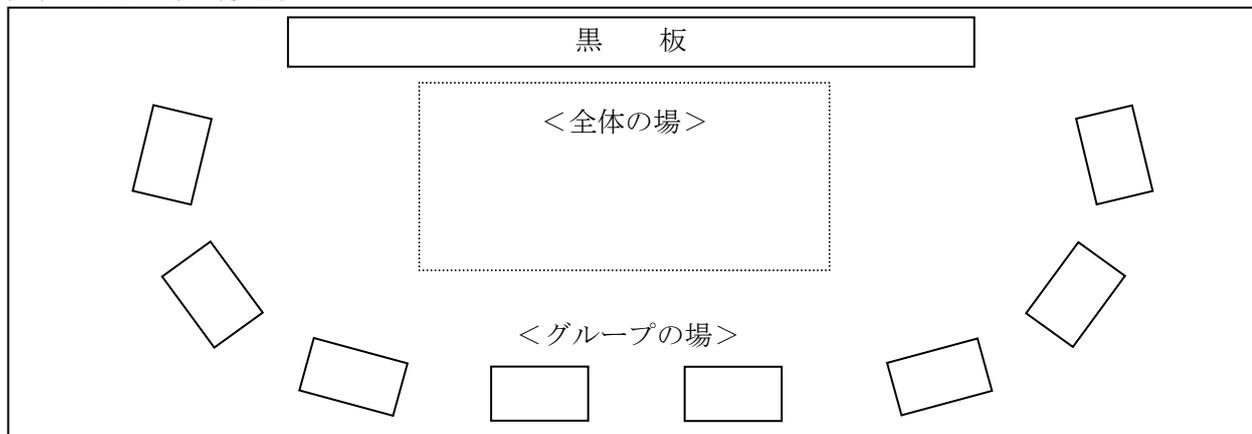
【音楽表現の技能】(5/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【ウー①】 鑑賞及び音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かしてつくることができにくい子どもには、板書を参考にしたり、友だちの音をよく聴いたりして、音楽をつくるように助言する。</p>	<p>○質的に高まった状況 ・友だちの音をよく聴きながら、反復・変化・音楽の縦と横の関係など、様々な方法を試して、変化がよくわかる音楽をつくっている。</p>
<p>○具体的な評価方法 ・鑑賞及び音楽づくりの活動で学んだ、反復・変化・音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもって変化のある音楽をつくっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カードから見取る。</p>	

(4) 板書計画



(5) 活動の場(教室)



1 1 本時の学習（6／6時）

- (1) 目標 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、自分たちの音楽を視聴しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時に録画したものを視聴することにより、自分たちのつくった音楽を確かめることができるようにする。</p>	
<p>もう一度「ロック・トラップ」を聴き、身体を楽器にした音楽の面白さを味わおう。</p>		
<p>3 もう一度「ロック・トラップ」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 「もう一度聴いて、感じたことや気付いたことを話し合いましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの音色がはっきりと聴き取れるようになったよ。 ・Aの部分とB・Cの部分でリズム・強弱の変化があって面白いね。 ・はじめの鑑賞より、感じたことや気付いたことが増えたね。 ・演奏している映像を観ると、身体を動かしているとても楽しそうだね。 <p>4 学習を通して感じたことや気付いたことを書く。 「鑑賞して音楽をつくり、再び鑑賞したことで、感じたことや気付いたことを書きましょう。」</p>	<p>*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係を理解することができるようにする。</p> <p>*第1時で板書した「感じたこと」と「気付いたこと」に付け足すことにより、音楽づくりの活動を通して身に付いた力を実感することができるようにする。</p> <p>*演奏している映像を観ることにより、視覚的に曲のよさを聴き取り、感じ取ることができるようにする。</p> <p>*例文を提示することにより、書き方の参考になるようにする。</p>	
<p>(学習カードの例)</p> <p>わたしは、はじめの鑑賞では、四つのリズムがあまりよく聴き取れませんでした。でも、いろいろな音を探したことで、最後の鑑賞ではリズムがはっきりと聴き取れるようになりました。また、グループで重ねたり組み合わせたりすることで、いろいろな重なり方をしていることに気付くことができました。「シュッ」という音でつくられたリズムが面白いです。また、同じリズムをいっせいに演奏しているところが、音がそろっていてかっこいいなと思いました。</p>	<p>*これまでの学習カードを参考にしながら、鑑賞して音楽をつくり、再び鑑賞したことにより、はじめの鑑賞から感じたことや気付いたことがどのように変わったのか、自らの身に付いた力を実感することができるようにする。</p>	<p>【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>
<p>5 音楽の縦と横の関係が聴き取りやすい音楽を聴く。 「違う音楽を聴いて、どのように感じたり気付いたりしましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声だけでできている音楽もあるんだね。声がどんどん重なっていることが聴き取れて楽しいよ。 ・音の重ね方や時間の流れがわかりやすい音楽はまだほかにもありそうだね。 	<p>*音楽の縦と横の関係を聴き取りやすい音楽を聴くことにより、様々な音楽が、音の重なりや時間的な流れが合わさってつくられていることに気付くことができるようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

【鑑賞の能力】(6/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・文に表すことができにくい子どもには、板書や例文を参考にしたり、これまでの学習カードで書いた文を使って書いたりするように助言する。</p>	<p>○質的に高まった状況 ・鑑賞と音楽づくりの関連を図ったことにより、はじめの鑑賞と比べて新たに感じたことや気付いたことを的確に発言したり、文に表したりしている。</p>
<p>○具体的な評価方法 ・鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・リズム・強弱・反復・変化・音楽の縦と横の関係の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いているかどうかを、聴いている様子の観察・発言・学習カードから見取る。</p>	

(4) 板書計画

もう一度「ロック・トラップ」を聴き、身体を楽器にした音楽の面白さを味わおう。

「ロック・トラップ」 シンシュタイン 作曲	I のリズム	声, 口笛	A の同じリズム	紹介文の例		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; padding: 5px;">感じたこと</td> <td style="border: 1px solid black; width: 50%; padding: 5px;">気付いたこと</td> </tr> </table>	感じたこと	気付いたこと	II のリズム		指ならし, ひざ	B の主なリズム
	感じたこと	気付いたこと				
	III のリズム	手				
IV のリズム	ひざ, 太もも					

A→B→A→C→A→B→A→後奏

I	
II	
III	
IV	

(5) 活動の場 (教室)

